

滋賀の街なみ

滋賀学区は、京阪石坂線近江神宮駅から南滋賀駅付近を中心に山側と琵琶湖側に広がる地域です。西部が山地、地域中央部がやや傾斜をもった扇状地性の低地、東部が低平な低地となっています。

昭和30年代までは農村地帯でしたが、昭和49年にJR湖西線が開通、昭和56年に西大津バイパスが完成し、昭和40年以降の住宅開発により人口は現在も増加傾向にあります。

隣接学区に商業施設はありましたが、2019年11月には大津びわこ競輪場跡地に近江神宮外苑公園と複合商業施設がオープンしました。

滋賀学区は農村地帯の名残が残るまた、豊かな自然や歴史の息吹が感じられる住宅地です。主に山側は古くからの住宅地で、琵琶湖側は新しい住宅地になり、どちらも比較的静かな住宅街が続いています。



宇佐山城跡から望む学区風景

柳が崎湖畔風景

